令和５年度　学校経営計画

１　学校教育目標

自立と社会参加を目指し、健康な心身の育成と社会生活に必要な生活能力の育成を図る。
＜校訓＞　あかるく元気な子　　なかよく助けあう子　　力いっぱいがんばる子

２　学校の特色

本校は、知的障害のある児童生徒の教育を目的として県下で最も早く設置された学校であり、小学部・中学部・高等部の３つの学部で構成されている。また、通学して教育を受けることが困難な児童生徒のための訪問教育や、集団生活を通して生活自立を目指すための寄宿舎が併設されており、本年度は全校児童生徒２２７名が在籍している。

（１）心の触れ合いを大切にしながら、個性を尊重した温かい人間関係と豊かな情操の育成に努めている。
（２）児童生徒一人一人の障害の状況や興味・関心を大切にしながら、それぞれの教育的ニーズに応じて、個別の教育支援計画、個別の指導計画を作成し、生活自立と社会参加に向けた指導・支援を実践している。
（３）健康で安全な生活習慣や態度が身に付くよう体力つくりに努めるとともに、安全教育を計画的・組織的に実践している。
（４）家庭及び地域、関係機関等と連携し、開かれた学校づくりの推進に努めている。
（５）地域における特別支援教育のセンター的機能の充実を図るとともに、教員の専門性の向上に努めている。

３　学校の現状と課題

・本校は、重複障害児が約３割、自閉症スペクトラム障害等発達障害を併せ有する児童生徒が約５割在籍し、障害の状態も重度・重複化、多様化している。したがって、児童生徒一人一人の障害特性に応じた専門的知識や系統的・組織的な対応力が必要である。
・学習面や生活面、人間関係づくり等将来的な展望に立った教育的ニーズを的確に把握し、個別の指導計画、個別の教育支援計画に基づいた指導・支援の充実に努めている。小学部から高等部まで連続性のある一貫した取組となるよう教員、保護者、関係機関と綿密な連携を図る必要がある。
・児童生徒が心身共に健康で安全な生活が送れるよう、児童生徒の実態や発達段階に合わせた体力つくりを推進するとともに、感染症の予防に係わる指導や感染防止対策の整備に努める必要がある。
・教員一人一人が、危機管理に関する意識を高め、児童生徒への安全教育の徹底を図るとともに、不測の事態に対して組織的に対応できる学校づくりに努める必要がある。
・児童生徒への適切な支援のための合理的配慮や教育方針等に関して、保護者との合意形成を十分に図るとともに、地域や保健・福祉・医療・労働等の関係機関とネットワークを形成することで、家庭全体を支える体制づくりに努める必要がある。
・卒業後の豊かな生活を目指して、よりよい生活環境や就労環境を整えるため進路支援体制をより充実させていく必要がある。

４　学校教育計画

項　目			目標･方針及び計画	
1	学習活動	教務	目標	・学習指導要領に示された目標及び内容を踏まえた指導を行い、学習状況を適切に評価し、指導・支援方法を振り返り改善できるよう、個別の指導計画（学習の記録）を活用して、指導・支援の充実を図る。
			計画	・本校の児童生徒の実態、学習指導要領の育成する資質、能力を踏まえ年間学習指導計画の単元や指導内容を検討する。 ・個別の指導計画の意義や機能、本校の学習の記録の活用の仕方について、マニュアルや会議等を通じて、周知する機会を設ける。
		各学部	目標	・児童生徒一人一人の教育的ニーズに応じた、効果的な学習指導及び支援に努める。
			計画	・各教科等の目標と内容や児童生徒の実態に応じた指導方法について、共通理解を図る機会を設定し、一人一人の指導・支援に生かしていく。
		研修 重点課題１	目標	・主体的・対話的で深い学びの視点から授業改善を行うことで、一人一人の学びが深まる指導・支援の在り方を検討する。
			計画	**・一人一人の学びが深まる授業の在り方について研修会を実施する。** **・単元を通して行っている授業改善を生かし、教務部と連携し、年間学習指導計画の単元や指導内容を検討する。**
2	学校生活	保健	目標	・児童生徒が、健康で安全な生活を営むことができるようにする。
			計画	・日常生活における健康な生活習慣について児童生徒の意識を高める。家庭との連携を図り、好ましい習慣形成を図る。 ・緊急時の対応や感染防止等に関する基礎的な知識の研修や校内環境の整備を行うことにより、教職員の危機管理に対する意識や対応力の向上を図る。
		生徒指導	目標	・安心安全なスクールバス運行のための体制整備を図る。
			計画	・スクールバス運行会社の介助員、運転手と毎日の登下校時に情報交換をし、定期的に連絡会を開催して運行についての共通理解を図る。 ・児童生徒及び教員や保護者にスクールバス乗車における、ルール等について周知徹底の機会をもつ。
		寄宿舎 重点課題２	目標	・一人一人に応じた自立を目指し、生活支援の充実を図る。 ・舎生が寄宿舎で安心安全に過ごすことができるようにする。
			計画	**・舎生の実態や行動特性等を「寄宿舎生活の記録」を用いて共通理解を図る。** ・行事や交流活動、グループ活動などを通して経験を積み、余暇の充実を図る。 ・様々なケースを想定した避難訓練や感染症対策、投薬管理を実践する。また、ヒヤリハット事例を共有することにより、危機管理に対する職員の意識や対応力を向上させる。

3	進路支援	進路指導 重点課題３	目標	・生徒が自己理解を進め主体的に進路を選択できるよう、キャリア教育の視点で計画的に進路学習を進め、進路指導の充実を図る。
			計画	・キャリア教育に関する研修の機会を設けたり、進路に関する情報を提供したりして教員の資質向上を図り、進路学習や進路指導に生かす。 ・生徒が卒業後の進路や生活について考えるために体験的な進路学習を取り入れ、事前事後学習を充実させるとともに、自分の適性に合う進路先について教師に相談する機会を設ける。
4	特別活動	特活	目標	・生徒が主体的に生徒会活動に取り組めるよう支援の充実に努める。
			計画	・年間活動計画を立て、生徒が見通しをもって活動に取り組めるようにする。 ・活動の場や時間の設定等、支援方法を工夫し、積極的に取り組める環境を整える。
		図書	目標	・読書環境の充実を図り、児童生徒の読書に対する興味・関心を高め、読書活動の推進を図る。
			計画	・児童生徒が利用しやすい図書室の環境づくりを行う。 ・生徒会図書委員会を中心として児童生徒にとって親しみやすい図書の紹介を行う。 ・児童生徒の生活年齢や発達年齢、障害の特性に応じた図書を選定し、小学部・中学部への移動図書、読み聞かせの会、校内読書感想画コンクールを実施する。
5	その他	教育相談	目標	・センター的機能の強化・充実を図り、地域の幼稚園、保育園、認定こども園、小学校及び中学校、義務教育学校、高等学校（以下小・中学校等）に在籍する幼児児童生徒等を支援する。
			計画	・地域の小・中学校等へよりよい支援の提案や情報提供ができるように、教材や特別支援教育に関する参考図書や資料等に関する情報収集を行うとともに、ホームページに掲載する内容を検討し更新する。
		総務	目標	・保護者が安心して参加し、満足できるＰＴＡ活動の企画・運営をサポートする。
			計画	・保護者の要望や前年度の反省を生かして、保護者が安心して参加できる活動を計画する。
		情報	目標	・タブレット端末やプロジェクタ等のＩＣＴ機器利用環境の整備や執務用ＰＣの安全かつ効率的な情報管理運用を図る。 ・職員のＩＣＴ活用能力・技術の向上をめざし、授業等において積極的な活用を図る。
			計画	・執務用ＰＣの効果的な活用を促進するとともに、ＩＣＴ機器を授業等で活用できるよう、環境を整える。 ・授業や分掌業務等の作業が円滑かつ効率的に進めることができるよう、サーバー内のフォルダ構成や保存するデータの整理・精選を行う。 ・会議や授業等においてＩＣＴ機器が積極的に利用できるよう、ＩＣＴ機器の有効的な活用方法やアプリケーションに関する研修を行ったり、ＩＣＴ機器を活用した授業研究を実施したりする。

5　今年度の重点課題（学校アクションプラン）

令和５年度　高岡支援学校アクションプラン　－１－	
重点項目	学習活動(研修)
重点課題	児童生徒一人一人の学びを深める授業改善
現　　状	昨年度より、「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を行うことで、一人一人の学びが深まる指導・支援の在り方を検討してきている。児童生徒の発言や行動を事実として捉え、その背景にある「思い」を複数の教員で解釈し、話し合ったことを基に学習内容や指導方法の見直しを行うことで授業改善を図ってきた。昨年度は各学部共に、集団の授業で、育成を目指す資質・能力の三つの柱で単元の目標を立て、授業づくり、学習評価、授業改善を行った。各学部の研修実践から、教員一人一人が児童生徒の学びの姿に注目し、単元を通して目標・評価を意識しながら授業を実践し、授業改善を行うことができるようになってきた。今年度は昨年度の成果を生かしつつ、さらに一人一人の学びが深まるよう、児童生徒の評価規準を明確にした上で、授業づくり、授業改善を行っていく。
達成目標	評価規準を明確にした授業づくりについての研修会や情報提供
	年間５回以上
方　　策	・外部講師による研修会や情報交換の場の設定、資料や刊行物の紹介等の情報提供を行う。 ・授業づくりに関する資料等をパソコンやタブレット端末でいつでも確認できるように、校内共有フォルダやクラウド（Googleの共有ドライブ）に載せる。 ・集団で行う授業の中から、各学部一つの教科等を取り上げ、単元を通して、児童生徒の評価規準を共通理解した上で授業づくりを行い、児童生徒の学びの姿から評価規準や学習内容を見直すことで授業改善を行っていく。

（評価基準　Ａ：達成した　Ｂ：ほぼ達成した　Ｃ：現状維持　Ｄ：現状より悪くなった）

令和５年度　高岡支援学校アクションプラン　－２－	
重点項目	学校生活（寄宿舎）
重点課題	一人一人に応じた自立を目指し、生活支援の充実を図る。
現　　状	・新型コロナウイルス感染症により、今年度１学期まで舎生一人が一週間に泊まる舎泊回数を制限しているため、寄宿舎で生活支援が継続して行うことが難しくなっている。 ・学校における指導、家庭での取り組み、寄宿舎における支援がうまく連携、統一が図りづらく、実生活に向けて般化の取り組みができていない。 ・日々舎生の担当指導員が代わるため、同じ支援を行うことが難しい。
達成目標	舎泊回数週２泊以上の舎生のうち、家庭と連携し生活支援に取り組んだ割合
	６０％以上
方　　策	・学部、家庭と情報共有を図りながら個々の課題や支援内容を設定する。学校、寄宿舎、家庭での支援方法を可能な限り統一し、個々の実践の様子を情報共有する。 ・「寄宿舎生活の記録」を活用し、指導員間で情報共有を図り、担当者が代わっても同じ支援が行えるようにする。 ・舎生に記録用紙を配付し、家庭での取り組み状況を記録させることで意識を高める。 ・外部より講師を招き、知的障害のある生徒の卒業後の生活を見据えた支援についての研修会を行う。

（評価基準　Ａ：達成した　Ｂ：ほぼ達成した　Ｃ：現状維持　Ｄ：現状より悪くなった）

<table>
<tr><th colspan="3">令和５年度　高岡支援学校アクションプラン　－３－</th></tr>
<tr><td>重点項目</td><td colspan="2">進路支援（進路指導）</td></tr>
<tr><td>重点課題</td><td colspan="2">高等部の生徒が自己理解を進め、主体的に進路を選択する力を育てる進路指導の充実</td></tr>
<tr><td>現　　状</td><td colspan="2">今まで、高等部の生徒の就業体験先や進路先を決める際に、生徒自身の希望を聞き取ったり、生徒の相談に応じたりすることがほとんどなく、保護者の希望に依るところが大きかった。また、自分の適性や卒業後の進路について具体的に考えることが難しい生徒、社会経験や情報の不足から卒業後の生活をイメージすることが難しい生徒が多く、キャリア教育の視点で計画的に進路学習を進める必要がある。
そこで、進路に関する体験的な学習を取り入れ、その事前学習や事後の振り返りの学習を通して生徒が卒業後の進路や生活について考える機会としたい。さらに、個別の進路面談を実施し、生徒が自己理解を進め、自分の適性に合う進路先を主体的に選択できるよう支援していきたいと考える。</td></tr>
<tr><td rowspan="2">達成目標</td><td>①体験的な進路学習の実施</td><td>②進路面談の実施</td></tr>
<tr><td>年間５回以上</td><td>年間２回以上</td></tr>
<tr><td>方　　策</td><td>・卒業生が働く職場見学や先輩に学ぶ進路学習の機会を設けたり、社会人講師から職業生活に係る技能を習得する実技講習会を実施したりする。
・生徒が様々な進路先を知り視野を広げるために、多様な就業体験先を確保する。
・生徒が卒業後の進路や生活について具体的に考えることができるよう、「就業体験のしおり」やワークシートを活用して計画的に事前事後学習を進める。</td><td>・就業体験後に生徒と個別の進路面談を実施し、就業体験日誌の体験先からのコメントや評価表を基に成果と課題を確認し、生徒の自己理解を促す。
・仕事内容や体験先の環境等を整理して自分に合う進路先を選ぶよう促す。</td></tr>
</table>

（評価基準　Ａ：達成した　Ｂ：ほぼ達成した　Ｃ：現状維持　Ｄ：現状より悪くなった）